

グループワーク

記 録 書

行政	中村英樹, 坂口増和, 土井美香, 伊藤友規美, 石黒欽也	町民	家田倫子, 那須直美, 前田悠樹
施策	1－1 地域で大切にすると子育て環境 1－4 個性を活かす障がい者福祉 1－6 豊かな自然を活かしたひとづくり		
内 容			
Aグループ			
【1－1】			
・町民意識調査によるニーズに土日に預ける先がないと記載がある。保育士が平日も仕事を持って帰っている現状を考えると難しいが、現状の課題を解決して、一つでも土日に受け入れてくれる保育所があるといい。 （土日の預け先があることで、働き方や働き先の選択肢が増えて住みやすいまちになると思います。）			
・目指すべき将来像に「母子の健康が…」とあるが、子育てに関しては父親も必要である。母に限らず父も参加できるようなイベントを企画してほしい。 （父親も子育てをする（している）社会を目指してほしい。）			
・他市町から転入してきた人にとっては児童遊園の場所がわかりづらい。ホームページや子育てガイドブック等に児童遊園の場所、写真、駐車場の有無等をのせてアピールしてほしい。			
・現状、園児が少ないのできめ細かな保育ができていると思う。保育料も安いので助かっている（同時入所）。			
・産前産後ケアを充実してほしい。			
【1－4】			
・障がい者当事者のみならず、介助する人への支援を充実してほしい。			
・地域で障害を持っている方が普通にいることを地域全体が理解してほしい。			
・町民意識調査によるニーズは、当事者（障がい者本人やその家族）でない人の意見が多いように感じられ、当事者の思いと乖離があるのではないかと。 （当事者の声を反映した障がい福祉計画等の声（ニーズ）を大切にしてほしい。）			
・精神障がい者への支援の拡充。			
・記載のある予算事業を行うのも重要だが、職員が率先して確定拠出年金など投資の勉強をして、町民に還元してほしい。			
【1－6】			
・国や県の補助金、交付金を積極的に活用して、環境教育の充実や自然環境の整備をしてほしい。			

内	容
	・「みなみちたのうた」は評判が良かった。その他にも企業とコラボするなど積極的にアピールしてほしい。(活用と PR 充実) ・桜公園がきれいに整備されていてよかった。どの地区でもやっていただけるようにアピールしてほしい。(地域(まちづくり協議会等)との協働できる環境が増えていくといいと思う)

グループワーク

記 録 書

行政	大崎沙久実, 伊藤尊人, 堀之内浩子, 松本伸弘, 宮地利式	町民	山本多恵, 坂本光江, 桂木恭子
施策	1－2 次代の担い手を育む教育環境 1－3 生涯通じて取り組む健康づくり 1－5 安心して住み続けられる長寿社会		
内 容			
Bグループ			
【1－2】			
・ 師崎小・大井小統合。丁寧な説明だったが、広報は読まない。大事なポイントは、丁寧に住民が置き去りにならないようお願い。			
・ 学校統廃合について、孫がいるが成績良くても人数少ないところではという考えがある。			
・ 学校設備、先生に満足している。			
【1－3】			
・ 予防接種費減の要因は？→出生数の減少が影響している。			
・ 健診受診率の向上のため、個別健診を推進してはどうか。			
・ 美浜町の健康教育（各種講座）が充実しているため参考としてほしい。			
【1－5】			
・ 介護保険について教えてほしい。			
・ 足の悪いお年寄り。買い物、ワクチンも置き去り、南知多町の至る所である。予算をここに投入できないか。美浜町いつてきバスのようなものがあるといい。配食サービスについて、店がない、料金が安い、安くすればぜひ実施してほしい。地域支援事業に充てることができると書いてあった。			
・ 介護サービス、おむつなどの施策に満足している。			
・ 高齢者を医療機関へ連れていけないため、そういったシステムが絶対必要。			
・ 財源が限られている以上、高齢者が後回しになるのは分かるが…。			

グループワーク

記 録 書

行政	保母公次, 家田直政, 滝本義紀 小坂有一, 相川洋輝	町民	鈴木伶菜, 坂口尚子, 滝本孝治
施策	1－7 郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ 3－5 暮らしを支える地域公共交通 3－6 多様性を認め、共に支え合うコミュニティ		
内 容			
Cグループ			
【1－7】			
＜予算事業についての意見交換＞			
・運動公園グラウンドの草刈りに予算をもう少しつけた方がよい。			
・内田家や梅原邸の広報費用を増やして宣伝した方がよい。			
・イベントは夜以外にも行ってほしい。コンサートが夜に開催だと、島の人がいけない。			
＜意識調査結果についての意見交換＞			
・特になし			
＜その他施策に対する意見等＞			
・内田家や梅原邸は、地元であっても場所を知らないという人が多いと思う。			
・広報や宣伝をして周知した方がよい。			
＜評価についての意見等＞			
・予算事業1点、管理指標1点、地域との協働0点、合計2点。総合評価はⅡ一部努力を要するが概ね順調となった。			
・地域との協働は、何をしているがなど知らないという人が多いのではないかな。			
【3－5】			
＜予算事業についての意見交換＞			
・海っこバスと知多バスが2台同時に走っているのは無駄ではないか。			
・バスの小型化で台数を増やす。船の終便を増やす。などして利用者が増えるようにしてほしい。			
＜意識調査結果についての意見交換＞			
・特になし			
＜その他施策に対する意見等＞			
・船の島民券、月に4枚は欲しい。現在の枚数だと半年かからずになくなってしまいうため全然足りない。			
・今後高齢者が増えると思うのでバス停の数を増やして利便性の向上を行った方がよい。			

内	容
	・地元・観光客問わずたくさんの人に乗ってもらえるバスにしていく広報や施策が必要だと思う。 ・子供（学生）の料金をもっと安くできないか。 ＜評価についての意見等＞ ・予算事業１点、管理指標１点、地域との協働１点、合計３点。総合評価はⅡ一部努力を要するが概ね順調となった。 ・観光地の足としてバスが利用されることも多いと思う。バスの整備だけではなく、バスから降りた後の整備も合わせて行ってほしい。歩道の整備や草刈りなど 【３－６】 ＜予算事業についての意見交換＞ ・今後空き家が増えていくので、空き家バンクの活用や登録の増加に力を入れると良いのではないかな。 ・古い家は良い木材を利用しているので、材料として売り出すなど、空き家バンクとは違う考え方でも空き家対策をしていくことはできないか。 ＜意識調査結果についての意見交換＞ ・特になし ＜その他施策に対する意見等＞ ・南知多町に住むとなった場合、ごみの捨て方や地元のルールなどわからないことが多いと思うので、アフターフォローができる体制が必要だと思う。 ・空き家バンクのPRについては、東海３県ぐらい広範囲に行う必要がある。（空き家の持ち主は遠方に住んでいる方もいるため） ＜評価についての意見等＞ ・予算事業１点、管理指標１点、地域との協働０点、合計２点。総合評価はⅡ一部努力を要するが概ね順調となった。 ・利用者している人があまり見えない。

グループワーク

記 録 書

行政	榑原康広, 百合草文哉, 相川知久, 齋藤桂, 北川峰子	町民	松下丈弘, 大岩ゆき乃, 大松展子
施策	2－1 豊かな海と産物を活かした水産業 2－2 豊かな農地と産物を活かした農業 2－5 新たなチャレンジを創る起業支援		
内 容			
Dグループ			
【2－1】			
＜予算事業についての意見交換＞			
・ 漁獲量が減っている。育てる漁業を推進し、若者が漁業に携われるようにしてほしい。			
・ 若者が漁業者になれるような予算編成を確立してほしい。			
・ カキ養殖等の新規の栽培漁業が話題となった。そのような者へ補助をしてほしい。やる気が出るし、他の者も実施するかもしれない。			
・ 時代の流れに沿って、新たな取組へのシフトチェンジを検討すべきである。			
＜意識調査結果についての意見交換＞			
・ 特になし			
＜その他施策に対する意見等＞			
・ 漁協と行政が連携し、育てる漁業を推進してほしい。			
・ 地産地消の推進をしてほしい。			
・ 価値の高い魚等を充実させると良い。			
・ 新しい産業の仕組みの構築を目指してほしい。			
・ 行政の協働への姿勢は理解できたが、よく見えるようにすると良い。			
＜評価についての意見等＞			
・ ニーズに合っていると思うが課題がたくさんあると思うので、解決に向けて推進してほしい。			
【2－2】			
＜予算事業についての意見交換＞			
・ 農地の周辺道路整備をしてほしい。			
＜意識調査結果についての意見交換＞			
・ 特になし			
＜その他施策に対する意見等＞			
・ 後継者不足である。			
・ 荒れ地の対策など個人ではできないことについて、対処してほしい。			
・ 子供に託せるような農地を残していきたい。			
・ 遊休農地の活用を検討すべきである。			

内	容
	・大企業の進出を推進し、大規模に農地の有効活用が推進できる体制を構築してほしい。 ＜評価についての意見等＞ ・特になし 【２－５】 ＜予算事業についての意見交換＞ ・特になし。 ※時間の都合上、十分な議論ができなかった。 ＜意識調査結果についての意見交換＞ ・特になし ※時間の都合上、十分な議論ができなかった。 ＜その他施策に対する意見等＞ ・ふるさと納税の返礼品は、種類がたくさんあり、楽しいと友人に言われる。 ＜評価についての意見等＞ ・特になし。 ※時間の都合上、十分な議論ができなかった。

グループワーク

記 録 書

行政	坂本圭志, 内田健二, 田中達也 田中美佳, 間瀬桂輔(欠席)	町民	山下茂, 小笠原辰夫
施策	2－3 新たな魅力や価値を生み出す商工業 2－4 何度も訪れたくなる観光・交流 2－6 価値ある産業を残す事業承継支援		
内 容			
Eグループ			
【2－3】			
・ふるさと納税について、いかに寄付してもらうかの努力が必要。新たな特産品を作り、返礼品に加えるなどの納税額アップのための支援をしてほしい。			
・自然を活かした花の名所等、人が自然に集まってくるまちづくりが必要。			
・役場職員も、地域や企業などからの提案に、積極的に関わってほしい。			
【2－4】			
・篠島、日間賀島は名古屋を中心とした近隣からの観光客が多いと思われる。日本全国で知名度を上げ、日本中から集客できる観光地にしなければならない。個人的には、島の民宿は、日本一安くておいしいとおもっている。全国に向けたPR方法を考え、実施していくべきである。			
・来てくれた観光客の満足度を上げ、再訪してもらうための努力が必要。			
【2－6】			
・新しい特産物を作るための町の支援が必要。			
・やる気のある人と事業をつなげるマッチングができるとよい。			
・漁師が減り、水産加工業者も減少している。			
・職業に魅力がなければならない。町全体が活気づくような方法がないか検討が必要。			

グループワーク

記 録 書

行政	石橋暁登, 相川久紀, 鈴木誠, 吉原裕人, 磯部貴宏	町民	須賀萌乃, 鈴木ひとみ, 岩尾哲彌
施策	2－7 働く環境づくり 3－4 安心な暮らしを支えるインフラ 3－7 心と体安らぐ自然・住環境		
内 容			
Fグループ			
【2－7】			
＜予算事業＞			
・前年度踏襲予算になっている			
・もっと支援の充実を			
＜管理指標＞			
・特になし			
＜地域との協働＞			
・特になし			
【3－4】			
＜予算事業＞			
・水道は独立採算ではないのか→離島分やコロナ関係分は一般会計である			
・橋の修繕は？→5年に1度の点検により優先順位をつけて行う。			
＜管理指標＞			
・町独自の環境の通信（広報）を発行し充実させる			
＜地域との協働＞			
・公園の管理（利用度ランク付け）			
・家庭菜園、親子農園等に遊休農地の貸し出し			
【3－7】			
＜予算事業＞			
・野良犬対応・害虫駆除の予算はあるのか			
・衛生組合分担金はいつまで続くのか			
＜管理指標＞			
・特になし			
＜地域との協働＞			
・美化活動			
・看板設置（啓発や散歩コース等）			

内 容				
Fグループ	評価点数			
評価項目	基本施策	2 - 7	3 - 4	3 - 7
予算事業	評価点数	2点	2点	2点
管理指標	評価点数	2点	1点	2点
地域との協働	評価点数	1点	1点	1点
合計点数		5点	4点	5点
総合評価		概ね順調	一部努力を要するが概ね順調	概ね順調

グループワーク

記 録 書

行政	戸田竹彦, 堤田健太, 久野裕規, 山下哲矢, 鈴木喜彦	町民	安田篤史, 宮坂智賀, 木藤朝光
施策	3-1 まちと命を守る防災 3-2 つながりを活かした交通安全と防犯 3-3 資源を活かす土地利用		
内 容			
Gグループ			
● 町の施策が町民のニーズに合っているか？ ● あっていない場合改善の方法、内容は？			
【3-1】			
● 7の防災施設設備事業の今年度の予算0なのは？ ➢ 令和2年度は豊浜、令和3、4年度はなし、これ以上箱物は予定なし。防災センター避難所の整備が十分できているが、周知が十分でないから、要望がある。 ● <u>HPでの周知は高齢者には十分でない。広報、回覧も来るのが遅い。</u> ● <u>周知方法が広報しかないが、広報も月に一回。周知が課題。</u> ➢ 防災講和、防災訓練で説明しているが… ● <u>防災意識が疎い。いくら言っても関心がない。駐在員をやっていたが、携わっている者しか関心がない。</u> ● 隣組がしっかりしていれば。 ● 長谷地区は1年に1回総会。その時くらいしか話す機会がない。 ● 1年に1回くらいは訓練をやった方がいい。町から区へ必ず訓練をやるように強い口調で要望する。 ● 片名は自主防災会がしっかりできているが、師崎はボーとしている気がする。 ● <u>学校に働きかけて、子供に意識付けしたらどうか？子どもに意識付けできると祖父母に意識づける。</u> ➢ 師崎中学校は防災教育をしっかりしている。 ● <u>避難所が山にあると、土砂崩れが心配。災害になった時に一つの避難所がだめになった時でも対応できるように、連携できるように。二次的な避難所があるといいのでは。</u> ● 非常食は毎年買うのか？ ➢ 5年保存。賞味期限が近くなったら防災訓練のときに配る。 ◇ バザーで売ったらどうか？ ● 協働末端まで徹底を頑張ってほしい			

内	容
	【3-2】 ● 町の防犯カメラはついているのか？ ➢ 町管理は12台。管理費用がかさむ。1年で100万くらい。主要道路、内海駅の駐輪場。抑止効果。 ● 南知多町は犯罪件数が少ない。 ● <u>防犯カメラがついていることをアピールしたほうが防犯効果があるのでは。ついていることを知らないのでは。</u> ● <u>バス本数少ない、いろんなところを回るので時間がかかる。美浜のような乗り合いは需要があるので、小回りがきくものを充実したら助かるのでは。そうすれば免許返上で交通事故が減るのでは。(安田)</u> ● 講和駅に直結するような道路の計画はないか？ ➢ 計画はあっても、土地の買収などは時間がかかるので、止まっている。 ● 人を乗せて運ぶと免許が必要となる。 ● カーブミラーがあると安心して道路に出てる。 ● <u>管理費がかかるのであれば、必要ないところを撤去しては。</u> ➢ 一回つけたのを撤去するは難しい。 ● あい寿の前、体育館はセンターラインを付けてほしい。 ● バスの話はここではないが、強く訴えたい。 【3-3】 ● 空き家を外国人が買えるか？移住者にも外国人を含めるのか？ ➢ 外国人でも売買できる。 ● 商工会を通じて外国人400人。<u>グローバル化で開かれると若干怖い気がする。地域の人が減ると一体感が生まれづらい。外国人に門戸を開いてほしくない。</u> ➢ 空き家バンクが評判悪い。地元が移住者が欲しいか、考えるべき。多様性を尊重すべきなのが、世界的な流れ。 ➢ 空き家バンクは借りたい人と化したい人をつなげるだけ。人を選べない。 ● 一番いいのが今いる人が残っている。 ➢ 出ている人は仕事がない。地元にある仕事とのマッチングができない。 ● 企業誘致をしているのか？ ➢ 自然公園法、市街化調整区域など、開発しづらい。 ● <u>漁業が一つになって力をつけるべき。商工会、漁協など地域に分かれすぎている。</u> ● <u>空き家は改善が必要</u> ● <u>空き家相続人行政書士、司法書士と連携としてスムーズにいくように</u> ● <u>予算空き家移住者縛りを厳しくしてほしい、協働取り組んでいる姿勢が見える</u>

グループワーク

記 録 書

行政	高田順平, 山本剛, 奥川広康, 山本剛資	町民	酒井友之, 齋藤慎也, 吉原知味(途中退席), 宮本邦彦(欠席)
施策	4－1 職員の成長とやりがい		
内 容			
Wグループ			
○予算事業に関する意見交換			
・官民連携はどんどん進めてもらいたい。(地元の事業者がどれだけ関われるかが要)			
・今ある予算内でできること(事務改善)のチャレンジを続けてほしい。			
・予算不要でできること、フレックス制は有効ではないか。			
・オンライン会議、リモート文化が浸透しつつある。有効に活用して予算の削減につなげてほしい。			
・ふるさと納税による予算確保も民間連携のひとつ。地元事業者とともに進めてほしい。			
○意識調査に関する意見交換			
・実感度が4施策中唯一下がった原因はいろいろあると思うが、若手職員の発想を大切に「やりたいことがやれる環境＝挑戦できる組織づくり」を意識して進めてもらいたい。			
・少人数でもいいから「チーム(2～3人)」活動を取り入れてほしい。(行革部会のような堅いものではなく)			
・ボトムアップを意識してほしい。			
○その他施策に関する意見交換			
・官民連携(師崎港観光センター)にはとても期待している。			
・コロナによる様々な生活スタイルの変容に伴い気づく点が多い、効率的・効果的な変化が必要			
○業務改善に関する意見交換			
【4－1①】			
・官民共創事業、企業版ふるさと納税等の事例収集とはどのような事例を想定しているのか。			
⇒先進自治体での活用事例集です。			
・民間活用調査研究にある事例集はオープンにする予定ですか。			

⇒先進自治体の事例集のため役場内での情報共有を想定しています。

- ・ 師崎観光センター周辺整備には期待している。師崎漁港も高速船・フェリーの発着場所が変更（師崎－鳥羽、師崎－伊良湖のカーフェリー廃止）になってから活気がなくなった。現在の師崎観光センターもみさきだけが出店している。地元の商店や旅館が出店できるような整備を行い、活気のある南知多町にしてみたい。
- ・ 民間の資金と知恵を活用しないと、町の財政だけでは新規事業ができない。
- ・ 役場は何かと制約が多く新規事業がしにくいので、民間を活用することは良い。
- ・ 官民共創プラットフォームってなんですか。
- ・ 官民共創事業の推進とプラットフォームの構築をもっと具体的に説明して欲しい。

⇒町の抱える課題を民間の事業提案とマッチングして新しいビジネスモデルを創出する仕組みです。

【４－１②】

- ・ 人事評価制度の見直しについて、R3に検討はじめてR5から実行では時間をかけすぎで、スピード感がない。民間ではこのスケジュールは考えられない。

⇒新しい評価制度の試験運用を行う、現行制度との並行運用期間は必要だと考えます

- ・ 人事評価制度で、評価がきちんと給料に反映されるような制度にしてみたい。
- ・ 所属とは違う「チーム」での活動は人材育成に有効と考える。
- ・ コロナ渦でリモート研修が増えているが、多様な研修がリモートになってから研修への参加者が増えた。

⇒役場内部でもオンライン研修について積極的に取り入れていきます。

- ・ 自己研鑽の支援で、職員の地域活動へ参加支援とあるが、町内在住職員については何らかの地域活動に参加していると思うが、町外在住職員も南知多町の地域活動へ参加してみたい。
- ・ 町外出身の職員が参加しやすい地域活動の環境が必要。

⇒町外出身の職員も地域活動に参加しやすい環境を皆さんと共につくっていきます。

- ・ 公務員は副業が禁止されていると思うが、ここでいう副業とは何か。

⇒例えばサッカークラブのコーチなど地域貢献活動を想定しています。

【４－１③】

- ・ 民間でもコロナ渦での仕事の体制で、横断的協力体制ができるようになった。
- ・ 人事異動について、個人的な異動だけではなく、やりたいことでのプロジェクトチームを立ち上げ、チームでの異動を検討してはどうか。職員のモチベーションをあげるのに効果があると思う。
- ・ 繁忙期と閑散期を考慮した年２回の人事異動は有効と考える。
- ・ 育児休暇取得・ノー残業デーは役場が模範となり推進していくべきだが、町民の中には役場は暇で良いという批判の声もある。

⇒町内の手本となる場合、役場が暇（楽）だからできると批判される場合、両方が想定されます。

- ・ ノー残業デー・育児休暇取得は民間企業でも難しく、なかなか定着していない。
- ・ 残業を減らそうとすると逆にサービス残業が増える。
- ・ 役場の仕事にはフレックスタイム制が有効と考える。

内	容
	○評価についての意見 ・ 官民連携、官民共創については、地元がどれだけ・如何に関われるかが重要。 ・ 改善スピードの向上は必要。 ・ 人事評価はじめ、事務改善が難しいことも理解できる。 ・ ボトムアップとトップダウンを併用した方が良い。

グループワーク

記 録 書

行政	内田純慈, 宮地利佳, 富田和彦, 田中直之, 大久保美保	町民	山下かず代, (千頭聡)
施策	4－2 業務の高度化、効率化		
内 容			
Xグループ			
○予算事業についての意見交換			
・事業概要だけでは、結びつかなかったが、説明を聞いて行政には知らないところであるようなことをやってもらっていることがわかった。			
・デジタル化することで、住民にはどんなメリットがあるのか。反面、高齢者にとってはデメリットでは。			
⇒役場へ行かなくても手続き等が自宅などからでき、住民サービスの向上につながる。しかし、高齢者への配慮は必要。			
・高齢者向けにパソコン教室などを開いてほしい。身近で使い方の説明を受けられるような場所や機会があるといい。			
・新規転入者が自分の住所・氏名を何回書くか、調査したことはあるか。デジタル化により、住所・氏名を1回だけ書けばよくなるとよい。			
⇒現状は、住民福祉課の窓口で、水道等他の関連手続きもできる。システムコストの問題があり、システムの導入は困難。			
○業務改善推進項目についての意見交換			
・係長以上がタブレットを使用しているが使いこなせているのか。			
⇒通常のパソコンと同じなので問題ない。Wi-Fi 環境を同時に整えることで、会議等でのペーパーレス化が推進されている。			
・同じく議員も使用するというのを聞いたが、こちらについても使いこなせるのか。			
⇒議会の資料等として印刷費、紙、封筒、郵便代が約 100 万円かかっている。かなり支出がある。議員がタブレットを自費で購入。			
資料の差し替え等に対応でき、持ち運びが楽。セキュリティ対策も自分で行っている。現在、会議において試験運用中。			
議場では 8 月 6 日の臨時議会に試行運用。			
議員によっては温度差があるので、慣れることが課題。			
・行政がテレワークするイメージは？			
⇒個人情報を持ち出せず、できる業務に限られていたため、自己研鑽が中心だった。昨年度から自宅でセキュリティ対策を施したインターネット環境に接続し			

内	容
	て、役場内のパソコンにつなぎテレワークを行えるようになった。それにより個人情報以外の書類作成が行えるようになった。 ・テレワーク交付金の申請を取り下げたとのことだが、その理由と、どのように使う予定だったのか。 ⇒交付金の趣旨と事業内容が合わなかった。旧師崎保育所をテレワーク用の企業へのレンタルスペースとして活用予定であった。 (町長ヒアリング結果) テレワーク交付金の申請については、３年度に申請したが国との協議の結果、交付要綱の趣旨と合わない部分があったため、取下げることとなり、その結果、４年度以降の官民共創による事業も見込めないため、デジタルソリューションによる事務改善は削除します。 ○その他施策に対する意見交換 新型コロナウイルス感染拡大を契機に、デジタル化が進んできているが、今後更にデジタル化が必要となってくるので、使いやすく、分かりやすいものとし、更なるデジタル化の推進をお願いしたい。 ○評価についての意見等 ・予算事業についてはいろんな事業があり適切である。 ・行財政改善については、おおむね有効である。 ・マネジメントについては、取り組めている。

グループワーク

記 録 書

行政	滝本功, 石黒俊光, 相川和英, 鈴木和芳, 森崇史	町民	秦由岐穂, 宮島崇志, 中村修見, (千頭聡)
施策	4－3 町民の満足度向上		
内 容			
Yグループ 記録メモ（意見質問） 14：26～15：45 推進計画の説明終了 14：58 ＜予算事業＞ ・何事にも町民参画というものを言葉に入れるとしっきりくる。 ・選挙公報がないのは民主的ではない。 ・今回の選挙は、町民側からすると投票が有るのか無いのかも、告示日当日の無線しなくて、わからなかった。 ・町民としては予算の反映の理由について知らないことが多い。 ・広報の発行回数13回の目標値は、視点はそこではない。 ・広報にアイキャッチをわかりやすく。 ・町民の求める情報と発信する情報がマッチしているのが、美浜町の広報である。 ・美浜町は職員全員への勉強会があり、広報のテーマの立て方から何かが一新された。 ・情報の要求度がマッチすると、満足度が高まる。 ・広報の研修受講を目標値に掲げてはどうか。 ・「伝える」と「伝わる」は違う。 ・町長対話室はよい取り組みである。その他に、町長が各種イベントへ出向き、話を伺ってくれるとうれしい。 ・議会へ住民参加を向上するのに、新しく実施するものはあるのか。 ・表章と60周年表彰はどう違うのか。 ・推進計画で学校再編予算は載っていないのか。 ・選挙管理費用は予算事業としては載っているが推進計画はないのか。 ・住民満足度を上げるために、どう考えるかではないのか。 ・議会の情報発信について、年4回の議会だよりでは情報の発信が遅いので、傍聴の観点からも、YouTubeによる配信を考えてはどうか。			
＜4－3①公共施設等の再編 推進計画＞			
○公共施設の適正配置 ・公共施設の再配置がなぜ、町民の満足度に繋がるのか。 ⇒人口減少下において、公共施設の再配置により維持管理に係るコストを削減できれば、住民サービス向上のための施策をより充実させることができる。 ・町民に対して計画策定の透明化が図られるのか。			

⇒再配置計画策定時には町民との意見交換会も実施し、意見を反映しながら進めていく。

- ・町民が納得する説明をするためには、目的、必要性、将来像を示すべきである。学校統廃合の問題では財政問題を後回ししてそれが目的にあるだろうに承知のことでしようというように、後出しした感じで目標の説明が当初はっきりしていないようであった。

⇒学校の統廃合の目的の第一は、児童・生徒数の減に対する教育環境の改善である。財政負担の軽減も、目的であると考えている。

○学校の統廃合

- ・学校が遠くなり、その解決案は。

⇒教育委員会では、登下校については、スクールバスを考えています。また、休日の部活動等については、海っ子バスなどの路線バスの利用を検討しています。

- ・学校部活動はどうなるのか

⇒学校統合前の段階から、学校や保護者等の理解が得られれば、合同チームで大会に参加できる体制づくりをします。

- ・学校適正配置をすることに対する住人への利点はあるのか。住まいから遠くなるのに。

⇒教育委員会では、児童生徒数の減少が続く中、子どもたちにとって、よりよい教育環境を整備することを第一に考えていますので、ご理解をお願いします。今後、統合校と各地域の連携について検討していきます。

<4-3②施設・事業の見直し 推進計画>

○情報発信の多様化

- ・多様化で、スマホ、パソコンを使わない高齢者への紙媒体の拡充はあるのか。

⇒今後も町広報誌による広報はしていきますが、町の発信する情報についてインターネット利用はより進むものであり、これは紙媒体から変わっていくものなので、紙媒体を特別に拡充する計画はありません。

- ・広報手段に、YouTubeによる配信も加えてはどうか。

⇒YouTubeによる町からの情報発信は現在も行っています。今後も動画による配信が有効な情報については、YouTubeも活用していきます。

- ・広報誌の作成について、情報発信の仕方を全庁的に研修すべきだ。

- ・美浜町の広報は、広報担当者が研修を受けて、掲載の仕方が刷新された。評判がよい。

⇒（2問を同一回答）より魅力のある、そして町民に届く広報・情報発信を目指すため、広報スキルアップ職員研修会を行っていく計画です。

- ・広報は、誰がいつ、どんな風に発信するのか。町民目線になるため、町民による発信チームの編成とかを考えてもよいのでは。

⇒町役場の広報・情報発信についての町民による発信チームではありませんが、「ウミひとココロ」のように町民によりまちの様々な情報を発信する取組みがされています。

内	容
	○窓口業務の見直し ・町と郵便局との連携協定は具体的にどこまですすんでいるのか。 ⇒郵便局より連携内容の提案・紹介をされたまでであり、まだ具体的ではありません。窓口事務の内容は、住民票等の発行・取得ができるようなものです。 ・郵便局と役場サービスセンターとの立ち位置はどうなるのか。 ⇒役場サービスセンターの役割機能は様々ありますので、郵便局と連携しても容易にその機能を無くすことはできませんが、住民サービスを低下しないよう、また行政のスリム化も考えて、その役割を今後検討していきます。 ＜４－３③住民のための体制づくり 推進計画＞ ○町内組織の再編 ・住民に対して、こういう予算を使っている、それがこう繋がっているという PR を。 ⇒予算事業については、事業評価書を公表しており、そのなかで、事業内容、目標指標、実績、評価などを示しながら、住民ニーズを反映している。 ・職員の人事管理、自己採点表は、行政側、事業側の採点であり、顧客満足度が高まる採点になっていない。適切なサービスを職員から知恵を引き上げて対応する、町民ニーズ、需要を引き上げる努力を。 ⇒評価の基準は職務ごとに、能力や実績を評価する制度になっており、職責に応じて、評価のウエイトが異なる。こうした基準の見直しを検討していく。 ○まちづくりへの住民参画の促進 ・総合計画 P D C A サイクル、評価委員会、その後、町事業に対して反映はするのか。 ・評価委員会の意見と結果は、action、結果にどう繋がるのか。 ⇒（上記 2 つについて） 町の事業については、評価委員会や各事業担当課での評価を基に PDCA サイクルの中で毎年度改善していきたいと考えている。 ・限られた行政資源を重点的に反映のだが、その後の手続きについての透明性、公開性はあるのか。事業実施の決定や予算について、そうした理由は説明されるのか。 ⇒ 事業を行う目的や理由、予算の決定方法などについてわかりやすく説明する機会をもつことが必要であると考えている。 ・町の出生数に対する分析検証は不十分である。 ⇒ 何が出生数の減少につながっているのかは様々な理由や状況があり明確にすることは難しいと思われるが、少なくとも子育てをしやすい状況を作り出す事業を実施していくことは必要であると考えている。 ・町民は何を重要と思っているのか。それに対する満足度の低さを比較し、低いところに対して、重点的に事業を行うべきだ。

内	容
	⇒ 町民が重要と思っている割に満足度が低い事業や課題などについて把握し、早期解決に向けて事業計画を検討していくことが必要と考えている。 ・ 潜在ニーズの掘り起こし、アンケートの取り方も工夫すべきだ ⇒住民意識調査については、毎年度満足度を比較するために変えられない設問もあるが、多様な意見を収集するため自由記述欄を充実するなどして対応していきたい。また、各課が行うアンケートについても変えられない設問もあるが、前例にとられずに時代に沿った意見を収集できるよう工夫していく。

グループワーク

記 録 書

行政	山本有里, 神谷和伸, 坂本有二, 山下忠仁	町民	大岩徳夫, 松下廣法, 伊藤恵子
施策	4－4 持続可能な行財政運営		
内 容			
Ⅱグループ			
○予算事業についての意見交換			
・ふるさと納税の返礼品はどのように決定されるのか。 共同ではできないのか。 季節ものは予約制のようにできないのか。 選ばれているものの動向を把握して改善できるのではないか。 ⇒募集をする。商品の発送等の協力が必要。負担の軽減が課題。			
○業務改善推進項目についての意見交換			
・歳出の削減の中での職員のコスト意識向上のための研修の対象は全員か。 ⇒元年度は全員を対象に行った。毎年度、次年度予算の編成説明会で係長を対象に行っている。			
・職員の資格制度はあるか。取得している資格を有効に活用しているか。 ⇒特に資格制度はない。取得している資格についても、人事異動により活用できていない場合もある。			
・「粋予算」については、意気込みを感じる。 ペーパーレスの意識は影響が大きい。 歳出の削減は、町民の現状を把握して、町民とともに行ってほしい。			
・補助金の削減は、クラウドファンディングや複合して収益を上げることにつなげて、弱みを変えていくとよい。クラウドファンディングはリターンが重要だが、手紙等の交流だけでもよい。ただし、必ず成功するわけではない。			
・ふるさと納税寄付額が目標に達しなかった理由は何か。 ⇒宿泊券や食事券の返礼品も多くある。新型コロナウイルス感染の影響により来町していただけなかったことも1つの理由と考えている。漁協の協力を得て釣り船の利用券を始めたところ好評。			
・低未利用の施設、公共施設の跡地 多目的に使えると、地域の人が使しやすい。地域の人でリノベーションして使いやすくするとよい。 民間により収益を得るか地域住民が有効に活用。 費用対効果を考えるべき。			

内	容
	産官学連携。 ○その他施策に対する意見交換 クラウドファンディングで町の良いところを発信してほしい。 歳出の削減は町民と一緒に考えてほしい。 町民に寄り添った施策をしてほしい。 枠予算で上限を設定したことは効果的と思う。 新型コロナ対策での町税等の徴収猶予は大変効果があったと感じる。 ○評価についての意見等 ・ 予算事業については適切である。 ・ 行財政改善については、概ね順調である。 ・ マネジメントについては、取り組めている。